

The page features three blue, 3D-rendered circles of varying sizes. One large circle is at the top right, a medium one is in the center, and another large one is at the bottom right. Thin blue lines extend from the top left and bottom right corners towards the circles, creating a sense of depth and framing.

グルーピングケア の原則

グルーピングケアは、小さなことに気付く
ケアです。

認知症とは、一旦形成された脳が何らかの…

代表 遠藤 邦弘
1995.4

認知症とは、一旦形成された脳が何らかの病変(原因)で障害を受け、「認識」「了解」「判断」「機転」「決断」などの神経心理機能がうまく働かなくなり、現実社会と過去社会とのズレ(ラグステート)を生じ、その結果「戸惑い」「不安」「不信」「ストレス」が発生し、軽度(社会)・中度(家庭)・重度(身辺処理)・最重度(基本生活処理)のいずれかの障害になった状態をいう。認知症高齢者をケアするにあたり、一般的に留意することを紹介したい。

1 認知症高齢者の日常生活の行動をありのままに受け入れることが基本です。たとえば、徘徊という行動そして感情の変化を的確に捉えることからはじまります。また、認知症高齢者の症度を理解することが大切であり、能力を超えるような期待はしないことです。

2 認知症高齢者は、自分が認知症であるという病識がありません。つまり、自分の障害に気づいていない場合が多いので、拒否をしたり、同じ事を話すなど内容の混乱を示します。反論、説得、叱るは逆効果となります。

3 認知症高齢者が日常生活の中で、どんなことができ、何ができないのか、評価した上で、ゆっくり時間をかけ、あたたかく見守ることが大切です。

4 ゆっくりとした時間の中で、穏やかな生活空間という、日々の生活環境をつくります。馴染みの家具、日常生活用品の中に包まれた空間が感情を穏やかにします。

5 職員や家族の都合で、馴染みの環境を変えない。静かな空間を保ち周囲の整理整頓に努めます。

6 一日のスケジュールを単純化し、本人主導型で規則正しい生活をつくる。決して介護する側の都合のスケジュールを生活に持ち込まないことが大切です。

7 新しい事への挑戦や馴れない所へ行く時などは、不安、混乱がおき易いので、手を握るなどスキンシップを取り、やさしく、ゆっくりと導くことが効果的です。タッチケアに心掛けます。

8 認知症高齢者は、複数の行動を一度に理解することはできないので、状態に合わせて、その都度声がけるのが効果的です。

9 「季節」「その月」「その日」「今」などの空間の混乱を生じるため、時間、季節などの情報をその都度、さりげなく提供しておくことが大切です。

10 皮膚からの情報提供として、非言語的ケア「タッチケア」に心掛けます。この手法は、ケアす

る側に心(注意)を向けさせることができます。(肩に手をかける・手の甲をさするなど)

11 話しかけは、できるだけ短く、単純なことばで、ジェスチャーをまじえて、ゆっくりと静かに話しかけます。一度にたくさんを話すと混乱を生じさせることになります。

12 介護者は、「表情」「声の調子」「アイコンタクト」など表情を豊かにゆっくりと話しかけます。

13 その症度(認知症年齢)にあった具体的なアタッチメントを介在させた話しかけは、その内容の理解を促すことに繋がります。